



製鐵所の 大盟休續報

労友會副會長西田健太郎逮捕 部で五十一名となる

怠業状態依然繼續

委員を見せしめ、其の後血眼となりて
向人の行儀を捜査中六日午後八
時頃八幡署水松部長黒崎方面署
中田町事務所附近に於て之を
発見したれば尾行せらるるも知ら
ず、大勢の労友を擁護して且つ床
に立ち寄りて髪をおこして警察
署十一時頃上り電車にて門司に
出で大阪に向はんとするより今
日午後八時頃小倉山橋停留所
にて逮捕せしめ、山橋停留所
にて八幡署に拘引せられし者

氏その牛耳をミロツ、あつてそ
の會員四千五百人稱せられ、故
に於て最も優勢と稱せられつゝ
あれば其幹部に對しては製鐵所
側に於ても特別の優遇を與へて
勞資間を融和協調に當たらしめ
つゝありたるものゆゑ其實際は
左にあらざるべきも一般より見
ては軟派と思はれ従つて同會に
屬するものは種和派なりとの評
れつゝあり

▲友愛會の決議

六日中央區支部總會を開き 檢學者解放を嘆願す

八幡友愛會は六日夜中央區支部
に總會を開き主任木村鏡吉氏
長席に著き議事に移り第一決議
案として

決議案

吾等は勞動實施調停の立場よ
り時局紛糾を憂ふるものにし
て平和なる解決を希ふに於て
て檢束者を解放せしむるは人心
和し勞働爭議解決に對し其の
効力大ならんと思惟す依つて
總會の決議に基づき警察部長
殿に解放を歎願す

可決し委員に木村鏡吉、柳田
直一、鈴木善五郎、藤田俊太郎
西田文六の諸氏右の決議文を讀
して警察部長を訪問するこゝな
ごの言も附かれたり

▲大罷業の前日

中川次長に面談した

下關要室司令官代理鈴木少將
は八幡若松方面の要室地帯視
察のため三日より出張の序
を以て四日八幡製鐵所を視察
せしが歸來往訪の記者に語り
て曰く

予が四日製鐵所に到り所内を見
學したる時には何等不穩の状態
なかりしも歸來職罷業事件の
弊に接して驚愕を禁ぜざりし予
が中川次官に面談しその見學の
便を與へられたるに對し一言謝
意を表して別れたる時職工の
代表者 とも覺ゆる男

十數名次官に會見中なりしが後
に至りてその時彼等は例の要求
問題を提へて會見中ならしなら
んと思ひし予は時局の

あるも勞働者
友會其他を擁護して同調罷業の
舉に出でつゝある今日必ずしも
然るものも思はれず而して同
會は七日正午三午後七時に集會
を催し當面の問題を附議するこ
ゝになり居るが比較的種和なる
同會のことにて此際如何なる態
度に出づるかには深き注意を要す

今日この製鐵所の労働爭議は職
家的産業上憂ふべきことと思
惟す依つて吾等は誠意を以て
爭議調停に委員を選任し此任
に當らしむ

こゝして同協委員を派遣したるが
此總會席上にては種々激越なる
論議も出で「吾々は十時間労働
さへ長きに失するを以て實際は
八時間を適當せざるに此十時間
案さへも當局は遂巡して決せ
るに於ては吾等労働者さへも
平たなる決心なかるべからず」と

職工等の如く他の煽動に應じ
て罷業に出でざる事は勿論なれ
ば宜し彼等に良職工的教育を
施し以て一般職工に及ぼし改善
陶治するの必要あるべし予も
挨拶したる譯なり尙進んで
製鐵所の職工に對しては
會館所在地の職隊長以上を
して時を精神的調和をなし以て
彼等の頭腦に

軍人的 精神を叩き
ひ必要あらざるなきが兎角
思想問題の宣傳である